

長野のユースの環境意識調査（2014年）中間報告

NPO 法人みどりの市民
2014年10月31日

はじめに

地球温暖化はじめ各地域でも多発する環境問題の解決は 21 世紀の最重要課題となっている。環境問題の解決のためにはなにより環境教育が必要とされるが日本においては必ずしも十分には実施、機能しているとはいえない。特に将来を担う若者への環境教育はより重要性を増しているが、環境教育を効果的に進めるためには対象者の環境意識を十分に理解したうえで、適切で効果的な教材開発が必要である。そのために長野の高校、大学生（以下ユースと総称する）を対象にその環境意識を探るためのアンケート調査を 2013 年に実施したが、引き続き 2014 年にも、前年の結果をもとにアンケート内容をやや修正して実施した。ここでは各アンケート項目ごとに各学校別の集計結果と簡単なコメントを付して中間報告とする。

本調査は、北信地域の 5 つの高校と清泉短期大学、信州大学教育学部において各教員により本アンケートの実施と回収がおこなわれた。ご協力いただいた関係各位にあつく感謝申し上げます。また、本調査への資金提供をいただきました(株)長野都市ガス様にお礼申し上げます。

調査の方法

1. アンケートの作成

昨年の調査は主に「アジア・太平洋地域における青年の環境意識調査 1996 年」の資料を活用してアンケートが作成された。この調査は 1996 年にアジア太平洋地域 10 ヶ国の 16 歳を対象に、環境に対する意識の国際的比較をおこなうために実施された調査、研究である。アンケートは 94 項目もあり回答方式も多彩で回答時間をかなり要するので昨年調査では 20 項目のみを使用した。

昨年調査では、価値観を 14 項目でアンケートしたが、各項目間でかなりな類似がみられたので今回は 6 項目に減少した。また過去に実施した環境活動と今後やろうとする意欲とを分離した項目とした。昨年とほぼ同じ 15 分程度で実施できるようにほぼ同数の 43 項目とした（付表参照）。

アンケート項目の内容は、Q0～1 は回答者属性、Q2～3 は地域・地球レベルでの環境の現状認識、Q4～9 は環境価値観の対比的な判断、Q10～17 は環境配慮行動の実践の程度、Q18 は環境改善の主体、Q19 は環境教育の経験、Q20～33 は今後やろうとする環境活動、Q34～38 は Q39～40 は地域・地球レベルでの環境の将来予測、Q41～42 は環境改善への意欲と自己の能力感、をそれぞれ問うものである。

2. アンケートの実施

アンケートは紙による配布で無記名とし、以下の各学校にて協力者により実施され、回収された。

- ・信州大学教育学部では 1 年生と 3 年生各 260 名は授業「環境教育」の時間に実施された（6 月）。
- ・清泉短期大学では協力教員により、幼児教育学科の 1 年生と 2 年生各 120 名を対象に実施された（6 月）。
- ・長野市立長野高校では校友会により全生徒 450 名を対象にアンケートが実施された（7 月）。
- ・中野市の中野立志館高校では 1 年生全員 220 名を対象に実施された（7 月）。
- ・飯山高校では 1 年生全員 230 名を対象に実施された（7 月）。
- ・長野市の長野県立南高校では 1 年生全員 200 名を対象に実施された（7 月）。
- ・長野商業高校では 1 年生全員 240 名を対象に実施された（7 月）。

3. 集計および解析の方法

各学校よりのアンケート回答はエクセルに入力し、集計した。これらは主に信州大学教育学部環境教育研究会によっておこなわれた。

集計の結果とコメント

各学校の回答数は以下のように総計は1962名であった。

- ・ 信州大学教育学部1年：257名、信州大学教育学部3年：246名、清泉短期大学1,2年：156名
- ・ 長野商業高校（長野市）1年：237名、長野南高校（長野市）1年：195名、飯山高校（飯山市）1年：230名
- ・ 中野立志館高校（中野市）1年：212名、長野市立長野高校（長野市）1-3年：429名

1. あなた自身について、性に○をし、満年齢を記入してください。*年齢については省略する。

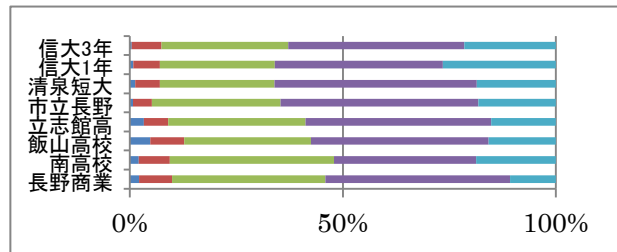
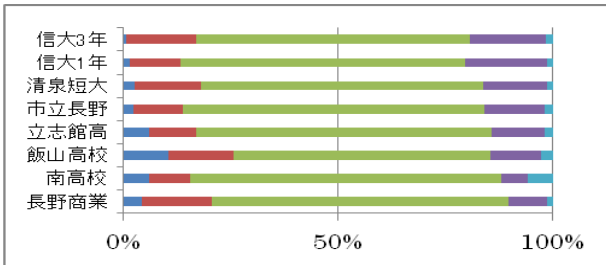
Q00 性別 男：823 女：1128 *短大が女性のみであり、全体では女性が多くなった。

2. あなたは、近年の環境の状況についてどのような実感をお持ちでしょうか。地域や地球レベルであなたの実感に最も近い番号1つに○をしてください。

①よくなっている ②ややよくなっている ③変わらない ④やや悪化している ⑤かなり悪化している

Q02 地域レベル（住んでいる町では） 1-2-3-4-5

Q03 地球レベル（世界全体では） 1-2-3-4-5

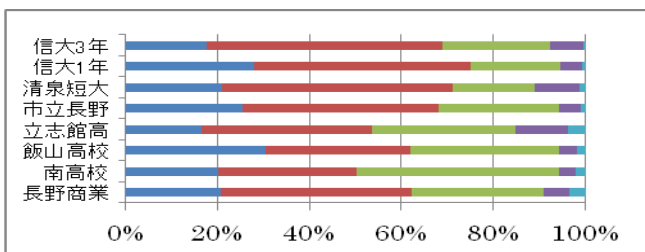


*地域レベルでは③変わらないが最多であるが、地球レベルでは悪化が60%近く、危機感がかなり高い。高校より大学でその傾向は強く、より悲観的である。

3. 各問題に対する異なった見方にどの程度賛成ですか、あなたの考えに最も近い番号1つに○をしてください。

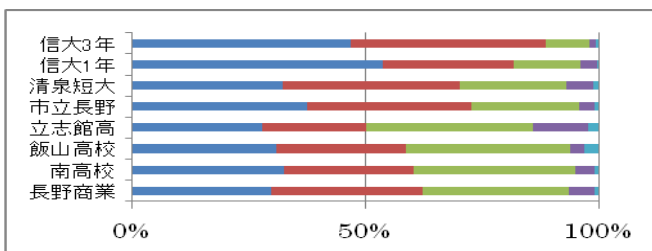
①左の意見に強く賛成 ②左の意見に賛成 ③どちらともいえない ④右の意見に賛成 ⑤右の意見に強く賛成

Q04 人間は環境に合わせて生活する ← 1 2 3 4 5 → 人間の生活に合わせて環境を改変すべきである



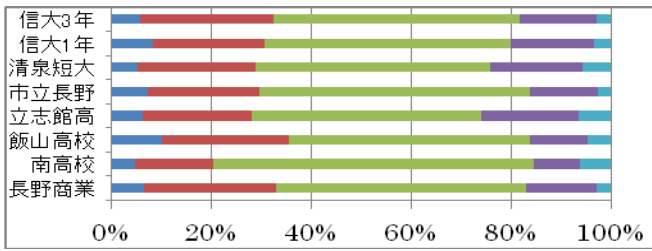
*6割近くが環境派であるが、若いほど③が多く、価値判断が弱い傾向がみられる。

Q05 地球は限られた資源と居住空間しか持たない宇宙船のようなものである ← 1 2 3 4 5 → 地球は巨大でほぼ無限の資源と居住空間を持っている



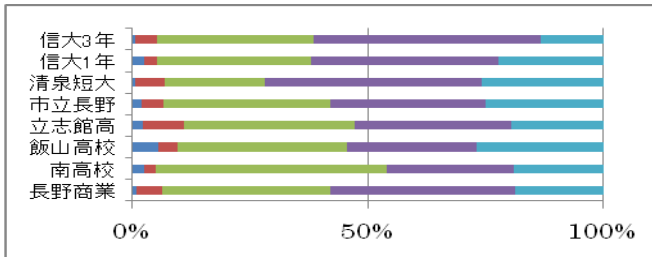
*7割以上が「宇宙船地球号」に肯定的だが、若いほど肯定派が減少するのは言葉になじみがないためなのか。

Q06 科学技術は問題の解決を見いだす ← 1 2 3 4 5 → 科学技術は解決するより以上に多くの問題を生む



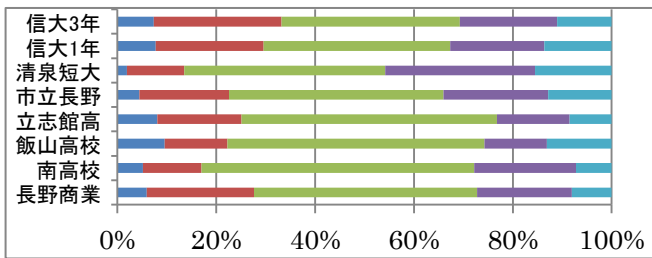
*全体に③が多く、価値判断ができていない。科学技術を使っていはいはいるがその功罪について学んだり考えたりする機会は少ない。

Q07 環境の保全よりも経済成長が優先されるべきである ← 1 2 3 4 5 → 経済成長よりも環境の保全が優先されるべきである



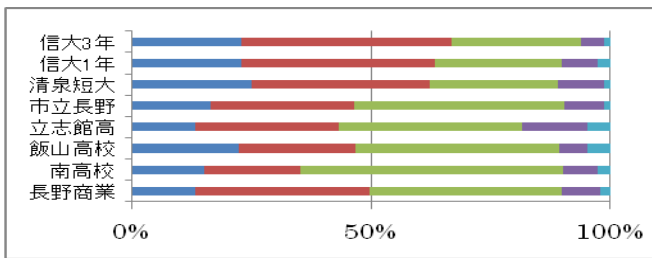
*大学では保全派が6割以上だが、高校では5割で差がある。高校では環境問題を学んだり感じたりする機会が少ないためだろうか。

Q08 原子力発電はエネルギー確保のために必要である ← 1 2 3 4 5 → 原子力発電は危険なので廃止すべきである



*原発に対しては肯定否定に二分されるが、③が最も多く原発の功罪の認識や判断が不十分である。

Q09 地域の土や農業は大切であり地産地消を進めるべきである ← 1 2 3 4 5 → 農業も世界規模で適作を行い貿易を進めるべきである



*大学で肯定が高いのは「地産地消」の理解が進んでいるためではないか。長野商業で高いのは学習と関連があるためではないか。

4. 以下の活動をこの1年間で行いましたか、当てはまる番号にいくつでも○をしてください。

- Q10 ① 環境に配慮して作られた用品を選んだり（グリーン購入）、レジ袋はもらわない
- Q11 ② 物はリサイクルしたり再利用したり長く使い（3R）、ゴミは分別する
- Q12 ③ 環境保護や改善の集会・講演に参加したり、署名活動をしたりする
- Q13 ④ 環境に良くない行動を変えるようまわりの人に働きかける
- Q14 ⑤ 環境美化やゴミ防止活動に参加する
- Q15 ⑥ 電気やガス、水の使用量を減らす努力をする
- Q16 ⑦ 環境保護に関係する本を読んだり、テレビなどで情報収集をする
- Q17 ⑧ 環境保全に関わっている団体に参加したり、寄付などをする

実施の割合% 長野商業 長野南高 飯山高校 立志館高 市立長野 清泉短大 信大1年 信大3年 平均

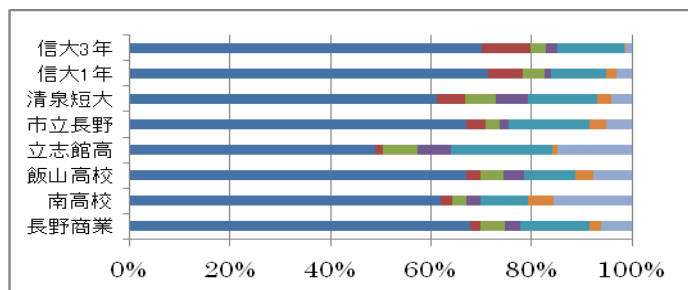
4. 以下の活動をこの1年間で行いましたか、

Q11 物はリサイクルしたり再利用したり長く使い(3R)、ゴミは分別する	78	65	69	70	73	85	74	69	73
Q10 環境に配慮して作られた用品を選んだり(グリーン購入)、レジ袋はもらわない	67	56	59	68	62	76	75	65	66
Q15 電気やガス、水の使用量を減らす努力をする	60	41	54	49	53	62	73	61	57
Q16 環境保護に関係する本を読んだり、テレビなどで情報収集をする	11	14	12	20	10	13	11	13	13
Q14 環境美化やゴミ防止活動に参加する	20	10	19	18	10	6	10	5	12
Q13 環境に良くない行動を変えるよう周りの人に働きかける	7	9	9	10	6	7	8	4	8
Q17 環境保全に関わっている団体に参加したり、寄付などをする	6	7	8	12	3	4	5	3	6
Q12 環境保護や改善の集会・講演に参加したり、署名活動をしたりする	6	3	6	8	2	4	8	1	5

*節電など習慣的な活動は6割以上が実施できているが、環境問題に関心をもって活動することはほとんどできていない。これは高校大学とでほぼ同じ傾向であった。

5. 環境を守る上で最も重要な役割を担っているのは、どれだと思いますか。番号1つに○をしてください

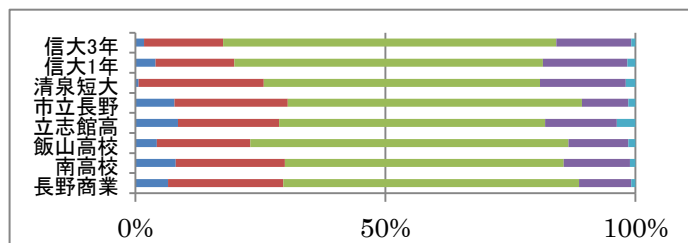
Q18 ① 国民 ② 事業者(企業・産業界) ③ 民間団体(地域団体や環境団体) ④ 地方公共団体(県や市町村) ⑤ 国(政府) ⑥ その他() ⑦ わからない



*自分も含めた国民全体との意識が7割で最も多く、環境意識は高い。半面で環境法を実施する行政をあげるのは少ない。回答のあり方を改善する必要があるだろう。

6. 小・中学校で環境問題はどのくらい取り上げられていましたか。当てはまる番号1つに○をしてください。

Q19 ①取り上げられていない ②1年に1回くらい ③1年に数回 ④1ヶ月に1回くらい ⑤毎週1回くらい



*年に数回が6割近く、学校行事などとして実施されているのだろう。大学で高校よりやや多いが、教育としては圧倒的に少なく今後の充実が必要である。

7. 環境のために今後やろうと思う活動を以下からいくつでも○してください。

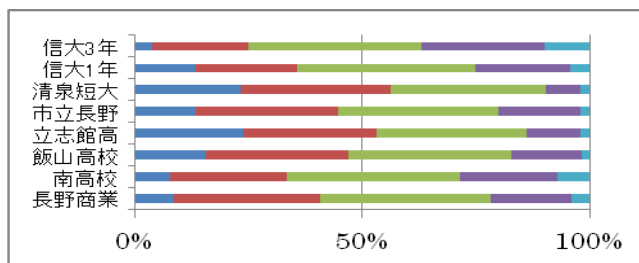
実施の割合%	長野商業	長野南高	飯山高校	立志館高	市立長野	清泉短大	信大1年	信大3年	平均
Q20 環境に配慮して作られた用品を選んだり(グリーン購入)、レジ袋はもらわない	81	65	75	68	76	89	82	83	77
Q23 物はリサイクルしたり再利用したり長く使い(3R)、ゴミは分別する	81	66	71	69	72	85	82	77	76
Q26 電気やガス、水の使用量を減らす努力をする	74	65	67	63	72	72	82	82	72
Q32 油やゴミを直接流さず、水を汚さない	61	49	49	54	55	57	60	57	55
Q33 季節に合わせた服装(クールビズ・ウォームビズ)や生活を朝型にする	55	43	47	48	48	55	62	63	53
Q25 環境についての考えを改め環境に配慮した生活をする	46	39	38	36	43	47	56	48	44
Q31 自然に出かけて楽しむなど、自然を身近に感じ、自然との関わりを持つ	37	34	38	42	33	46	49	57	42
Q24 家や学校で植物を植えるなど緑を増やす	37	33	40	36	31	45	37	34	37
Q30 肉より野菜を食べることで環境負荷を減らす	24	24	23	30	24	20	26	18	24
Q21 自然や環境の調査をしたり、環境について深く学ぶ	16	21	26	21	18	27	28	22	22
Q27 環境保護に関係する本を読んだり、テレビなどで情報収集をする	17	15	19	23	13	10	21	22	17
Q28 友人や子どもたちに環境保全について話したり、働きかける	11	14	17	15	10	12	23	15	15
Q29 環境保全に関わっている団体に参加したり、寄付などをする	9	15	16	14	9	12	16	5	12
Q22 環境保護や改善の集会・講演に参加したり、署名活動をしたりする	10	12	14	13	6	10	14	4	11

* ゴミの分別など具体的な環境活動への意欲は高いが、集会参加や友人への働きかけなど社会的な活動への意欲はかなり低く、今後の環境教育の課題である。

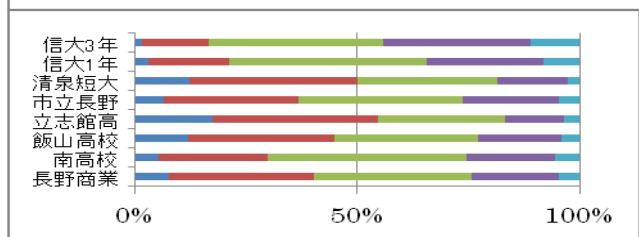
8. 次の言葉を聞いたり、理解したりしていますか。あなたの考えに最も近い番号1つに○をしてください。

①聞いたことがない ②聞いたが内容は知らない ③内容は少しわかる ④わかっている ⑤人に説明できる

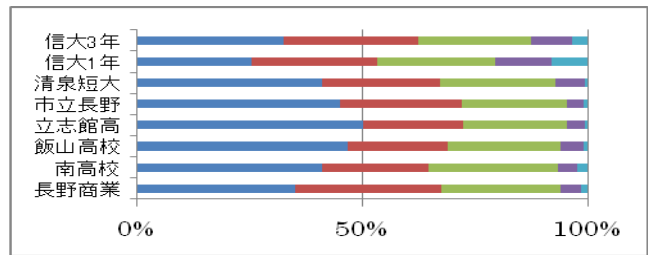
Q34 持続可能性 1-2-3-4-5



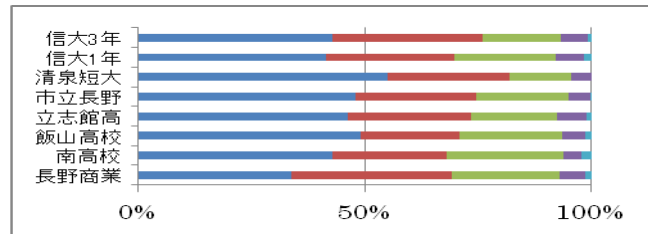
Q35 生物多様性 1-2-3-4-5



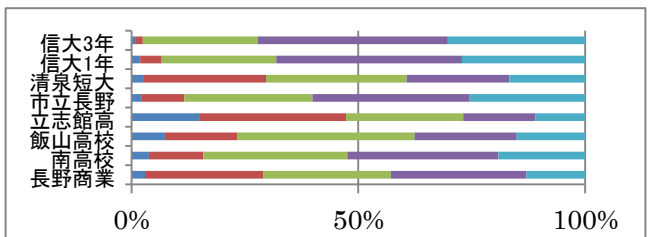
Q36 世代間の公平 1-2-3-4-5



Q37 予防の原則 1-2-3-4-5



Q38 温室効果ガス 1-2-3-4-5



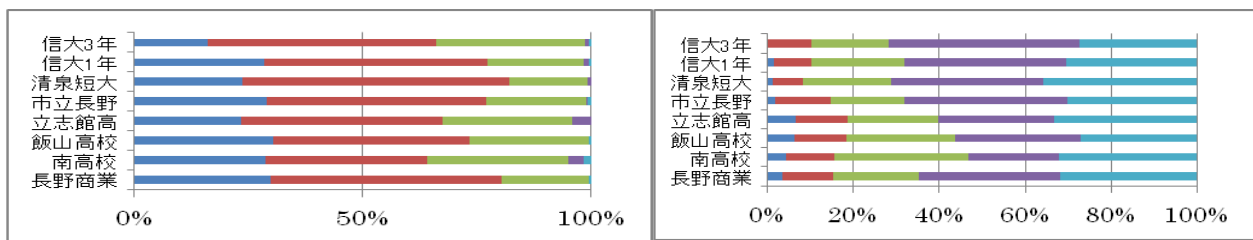
*地球温暖化の原因である温室効果ガスについては理解度(④+⑤)は5割以上で、学年が上がるほど高い。次いで「持続可能性」「生物多様性」の理解度は2割程度で学年が上がるほど高い。「世代間公平」「予防原則」はほとんど理解されていない。環境教育では、環境問題だけではなく課題解決のための基礎概念も重要である。

9. 15年後の地域と地球の環境をどのように予測しますか。考えに最も近い番号1つに○をしてください

①よくなっている ②ややよくなっている ③変わらない ④やや悪化している ⑤かなり悪化している

Q39 地域レベル (住んでいる町では) 1-2-3-4-5

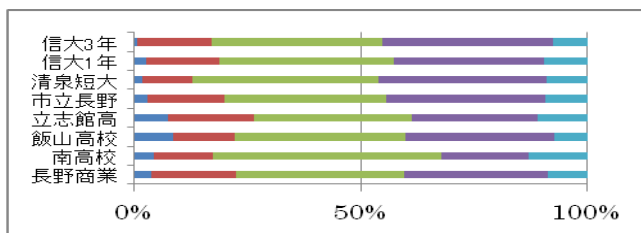
Q40 地球レベル (世界全体では) 1-2-3-4-5



*地域レベルの現状では悪化(④+⑤)が1割台なのに、来予測では4割まで増えている。地球レベルでも悪化は6割から7割へと増えており、ユースの悲観が顕著にあらわれている。

10. 環境の改善をどのくらい望んでいますか。当てはまる番号1つに○をしてください。

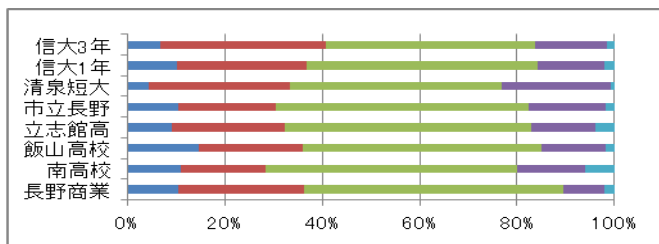
Q41 ①非常に強く望む ②強く望む ③普通 ④あまり望まない ⑤全く望まない



*改善を強く望む(①+②)が7割以上あり当然ながら多数派である。

11. どんな小さなことであれ、環境を守ったりより良くするのに役に立つ知識や力が自分にあると思いますか。
 当てはまる番号1つに○をしてください。

Q42 ①非常にそう思う ②そう思う ③普通 ④あまりできない ⑤全くできない



*しかし、改善のための自己力についてはあると思う (①+②) が4割弱で自己肯定観を高めることも今後の課題である。

まとめ

環境教育の効果的かつ適切な開発のために、高校生と大学生（以下ユースと略す）に対し、環境意識アンケートを実施した。アンケート項目は1. 環境の現状と将来の認識、2. 環境価値観、3. 環境実践の程度と意欲、4. 環境教育の経験、5. 環境の知識、6. 環境改善への意欲と自信、とし、アンケートを短時間でこなすために総計 42 項目とした。5 つの高校で 1303 名、短大・大学で 659 名、総計 1962 名から回答を得た。これらの集計から以下のような長野のユースの環境意識についての特徴がわかった。

1. 環境の現状と将来の認識： 全体に「悪化している」が「良くなっている」の倍以上あり、環境の現状には悲観的である。地域から地球レベルに広域になるほどその現状は悲観的である。将来予測については悪化するが多いが、改善もやや増えており予測は両極化する傾向があった。
2. 環境価値観： 人間にとって環境と技術・経済・生活などのどちらを重視するかを問う6問を設定した。自然や環境保全を問う抽象的な設問では肯定する意見が多いが、科学や技術の人間生活における具体的な功罪について大半の人が明確な価値判断ができずにおり、今後はこうした面での学習が求められる。
3. 環境実践： 環境行動の実践と意欲を問う回答では、リサイクルや節水など具体的な実施率は半数以上と高く、また今後やろうとする意欲もかなり高い。しかし、集会参加や友人への働きかけなど社会参加への意欲は実施と同じくらい低く低調であった。
4. 環境教育の経験： 学校での環境教育経験は9割以上と高いが、大半は年数回でいぜん少ない現状である。
5. 環境改善の主体： 国民全体とする意見が57%と高く、長野のユースの認識は全国平均よりも高く、期待できる。
6. 環境改善への意欲と自信： 環境改善を望む意見はかなり強いが、その基礎力である環境改善能力の自己肯定観は弱い。

以上から今後のユースへの環境教育として以下のような取り組みが必要とされることがわかった。

ユースの環境価値観として、自然・環境などの抽象的な保全については肯定的であるが、科学や技術と人間生活との関連について具体的に問われると肯定否定の判断ができなくなる傾向がある。科学・技術の特性やその人間生活への功罪を学習することが必要である。また、節水や節電など個人的な環境活動の割合は高いが友人への働きかけなど社会的な参加は少ないので、それらの事例や参加による効果などを提示することが必要だろう。小中学校での環境教育はかなりの程度に実践されているが、学生には学習したと意識されていないので学校では明示的におこなう必要があるだろう。環境改善への高い意欲を実践につなげるためには身近にできる実践や社会参加の事例を提示し、自分も環境改善にかかわれるという自己肯定感を高める学習が必要である。